

圭陵会FAXニュース

発行所:岩手医科大学圭陵会
 発行人:石川 育成
 編集人:酒井 明夫
 連絡先:TEL019-624-8386
 :FAX019-624-8380
 e-mail :info@keiryokai.gr.jp

第5号内容

・定員15人増の125人に 岩手医大医学部
 ・矢巾キャンパス拡大へ
 岩手医大 移転2次新築着工

岩手医大 医学部 岩医

定員15人増の125人に

地域枠を5人上積み

川端達夫文部科学相は7日、岩手医大(小川彰学長)の医学部定員を来年4月入学の2010年度から15人増やし、125人とする計画の認可を大学設置・学校法人審議会に諮問した。15人の定員増は長崎大と並び全国最多。当初計画では10人増だったが、全国の増員枠に余裕ができたため地域枠5人を上積みした。国は18日、同審議会の答申を受けて正式決定する。

岩手医大によると、一省に提出。その後、同県の奨学金を受ける代わりに地元勤務が義務づけられる地域枠5人程度、免許を取得して4年目までの歯科医師を医学部の3年次に編入させる学士入学枠5人程度の計10人を増やす計画を9月末、文科省から追加増員の意向確認があり、地域枠5人の上積み申請した。地域枠の学生に給付する奨学金は県が盛岡、釜石2医療圏について国に提出している。同大は08年度医学部定員を80人から90人

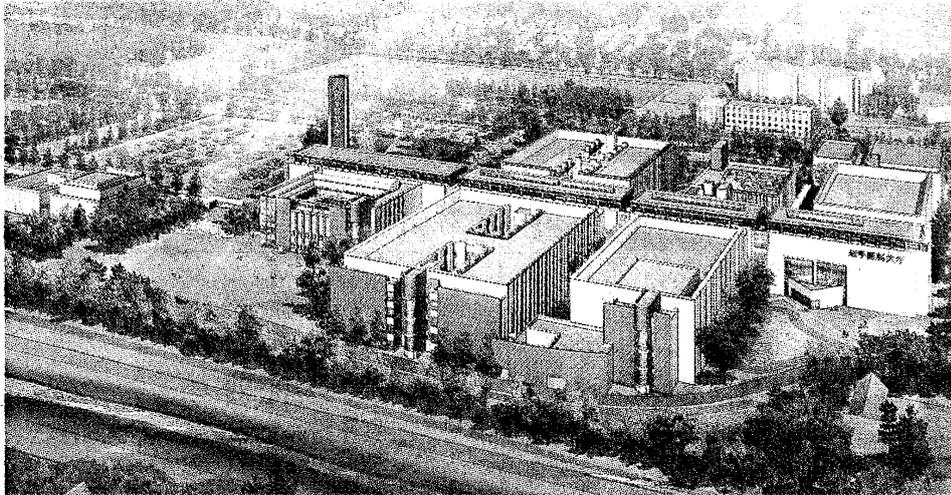
に、09年度は90人から110人に増やしており、3年連続の2けた増員。矢巾キャンパス(矢巾町)に2、4年生が学ぶ新しい講義実習棟の建設を予定するなど受け入れ態勢を整えている。文科省によると10年度、計約370人を目標に医学部の定員増を募ったが、申請が約300人にとどまったため追加を募った。増員を計画する国公立、私立計61校のうち岩手医

大の15人は長崎大と並び最多。10年度から19年度までの時限措置とされている。

小川学長は「東北地方の医師不足が厳しさを増す中、岩手医大に課せられた使命は大きく、住民の期待に応えなければならぬ。歯科医師の資格を持つ医師の養成は地域医療の新たな可能性を開く」と語る。

矢巾キャンパス拡充へ

岩手医大が移転2次新築着工



岩手医大の総合移転整備計画第2次事業の完成予想図

医、歯学部の施設整備

11年度から学生2倍に

盛岡市から矢巾町へ岩手医大(大堀勉理事長)が進める総合移転整備計画は16日、第2次事業新築工事に入った。第2次事業では医、歯学部(6年制)の2、4年生が学ぶ基礎部門、共同研究部門を矢巾キャンパスに整備、2011年4月からの両部門移転を目指す。既に薬学部(同)と、医、歯、薬学部1年生教養部門が学ぶ矢巾キャンパスには11年度、現在の2倍以上となる学生約1500人が集う。

矢巾キャンパスで起延べ床面積1万1300平方メートルと研究棟(400平方メートル)を4階建て、同1万5300平方メートルを整備する。北側には管理・エンターテインメント棟と動物実験センター、東側には学生の福利厚生施設を建設する。総事業費は約120億円。完成後は矢巾キャンパスで医、

歯学部の1、4年生と薬学部が学び、医、歯学部の5、6年生は臨床施設のある同市内丸キャンパスに残る。医学部の定員増に伴い、同市の既存施設では十分な教育環境を確保できず、移転時期を当初の予定から3年繰り上げた。

矢巾キャンパスの北側に隣接する土地の法規制変更を経て、同大は来年にも約18畝を購入し、付属病院移転に向けて始動したいと考えて。大堀理事長は「2次事業は3学部の連携が最大の目的。付属病院移転も国民のため、可能な限り早期に実現したい」としている。

H21.12.17 岩手日報

圭陵会FAXニュース

圭陵会広報局では会員の相互理解を深めるために、岩手医科大学内の情報を`圭陵会FAXニュース`として配信致しております。圭陵会支部長におかれましては、圭陵会会員への情報連絡をお願いします。なお、圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。

圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp/>